



総研大ニューズレター

第50号 2012.7 発行

●目次

【今月のトピックス】	「『JSPS サマー・プログラム オリエンテーション2012』 開催	学務課
	「第6回実践的大学院教育研究会「対話する挑戦！参加型プラットフォームを考える」 開催	学融合推進センター
	「人間文化研究機構、公開講演会・シンポジウム「不安の時代をどう生きるか—嶋長明と『方丈記』の世界—」 開催	国文学研究資料館
	「サイエンスカフェ『1億度にプラズマを加熱する—太陽を地上に—』 開催	総務課
	「先導科学研究科オープンキャンパス 開催	総務課
	「国立天文台特別公開講座/総研大天文科学専攻入試ガイダンス 開催	天文科学専攻

【各種募集】

【イベント情報】

主なイベント予定	
7月8日	日本歴史研究専攻 大学院説明会
8月20日~9月13日	天文科学専攻サマースチューデントプログラム (夏の体験研究)
8月21日	JSPS サマープログラム報告会

【今月のトピックス】

● 『JSPS サマー・プログラム オリエンテーション2012』 を開催

平成24年6月13日(水)、アメリカ合衆国、英国、フランス、ドイツ及びカナダの5か国の博士号取得前後の若手研究者(フェロー)109名が来日し、『JSPS サマー・プログラム』が幕を開けました。例年雨に悩まされる6月のサマー・プログラムですが、今年は薄日の差す空模様の中、2ヶ月の日本での研究活動に、期待に胸を膨らませた109名のフェロー達を乗せて、大型バス3台が葉山に到着しました。



長野副学長の歓迎の挨拶で始まった開講式。日本学術振興会や海外協力機関からも多くの関係者が出席されました。来日したばかりのフェロー達は緊張や疲れも見せず、夜の歓迎レセプションでは、日本での受入教員と対面し話に夢中になる姿や、総研大の教員や総研大レクチャーの参加学生と熱心に話し合う姿も多く見られ、多研究分野・多国籍のフェロー同士の国際交流が活発に始まりました。

第2日目は、日本における研究の特別講義が二つありました。これから2ヶ月間日本で研究活動をするフェロー達にとっては非常に興味深いものとなったようです。まず、国立国語研究所のプラシヤント・パルデシ先生より、日本語学についての講義があり、日本語既学習者にとっても、初心者にとっても、言語学から日本の文化・習慣を洞察した興味深い内容に、講義後はフェローから多くの質問が相次ぎました。続いて行われた、総研大素粒子原子核専攻の原隆宣先生の'Unanswered mysteries of the Universe'の講義では、ユーモアあふれる双方向型の講義に、会場内に笑い声が響く場面もあり、宇宙の謎についての原先生の問いかけに積極的に発言するフェロー達の姿が印象的でした。



また3日間の日本語講座では、より実践的な日本語を効果的に習得しようと積極的に学習に取り組む姿から、彼らの2ヶ月間の研究活動に向けた意気込みを感じることが出来ました。日本文化紹介(茶道・書道・折り紙・着付け)では、様々な日本文化体験を通じて、地元の方達と交流する姿が地元メディアにも掲載されました(神奈川新聞6月16日)。総研大生も加わったポスターセッションでは、研究内容について活発な意見交換が飛び交いました。週末には、日本家庭でホームステイを体験し、箱根の温泉、鎌倉の大仏見学、魚釣りなど、素晴らしい思い出を作り、帰着時にはホストファミリーと抱き合っ別れを惜しみ、小さな子供たちがフェローとの別れに涙を見せる姿も印象的でした。



18日(月)には、元東京藝術大学教授の安藤政輝先生の講演及び邦楽演奏がありました。始めに安藤先生から日本の伝統楽器についての説明、その後、箏、尺八、三味線、十七弦を用いた6曲の楽曲の演奏がありました。最後の「さくら変奏曲」の演奏後には、全員が立ち上がって拍手をするフェロー達の姿から感動がよく伝わってきました。質疑応答の後、直に楽器に触れ、音を出してみる機会が提供され、檀上に用意された箏や三味線、尺八に触れてみたいというフェローが長い列を作りました。



オリエンテーション期間中は梅雨にもかかわらず、終始お天気に恵まれた今年のJSPSサマー・プログラムでしたが、最終日の6月19日(火)は季節外れの台風に見舞われ、西日本に出発するフェロー達は、交通手段の対応に悩まされました。四国に滞在する2名は台風の影響で1日遅れでの受入機関到着となりましたが、1週間の葉山でのオリエンテーションプログラムを終えたフェロー達は、全国各地の受入機関に向け、それぞれの決意を胸に旅立っていきました。109名のフェロー達が、それぞれの機関で精力的に研究活動に従事することにより、彼らのエネルギーが日本の大学教育および学術交流の国際化を促進することを祈念します。

【文責 学務課】

● 第6回実践的大学院教育研究会

「対話する挑戦！参加型プラットフォームを考える」を開催

<日程>6月8日(金)10時~17時

<開催場所>地球環境パートナーシッププラザ：渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

<参加者数>51名

サイエンスコミュニケーション、科学技術政策、大学院教育など様々な場面で「参加型プラットフォームであるワークショップ」が採用されています。しかしながら、種々存在するワークショップ手法についてそれぞれの強みや弱み、どのような使われ方が可能か、また、どのような使い方をすべきかについては、理解が進んでいません。そこで、事例に即して相互に紹介しあうとともに相互に連携できそうな研究課題等を発見することを目指して研究会が開催されました。



まず、7名のゲストから、「ワークショップ」（対話）とは何か、実践する際に核となる考え方や方法論、これまで実践してきた事例について以下のようなそれぞれの観点で報告されました。

「ワークショップ：システム方法論の観点から」

「ワークショップデザインにおける熟達と実践家育成への視座」

「大学院教育におけるワークショップの活用」

「対話する挑戦：個人知とネットワーク知」

「ワークショップに対する critical perspectives」

「ワークショップの実践：場をつくる」

「異なる見解をもつ人々同士の対話」

次に、ゲストの報告で出された論点を簡単に整理し、「ワークショップの可能性・魅力と限界、課題」についてフロアを交えてグループでディスカッションが行われました。そこではワークショップについて、どこに焦点をあてて議論するべきか、様々な意見が出されました。その後、フロア全体で、さらに議論が行われ、ワークショップのミッションとタスクの明確化の必要性やワークショップのインパクトを評価することの重要性、ワークショップにおいてネットワークをつくることの意義など様々な意見が出されました。



総研大教育の場面においても研究テーマを話し合う場面においても実践されているワークショップという手法について改めて考えさせられました。そして本研究会において方法論や評価方法についても確立できる可能性も見えてきました。今後は本研究会の成果を大学院教育に活かして行きたいと考えています。

【文責 学融合推進センター 講師 岩瀬峰代】

● 人間文化研究機構、公開講演会・シンポジウム

「不安の時代をどう生きるか—鴨長明と『方丈記』の世界—」を開催

去る5月19日の午後1時から千代田区内幸町のイイノホールにおいて人間文化研究機構の第18回公開講演会・シンポジウムが開催されました。この催しは機構に属する六つの機関が回り持ちで行うもので、今回は国文学研究資料館が当番にあたり、外部の研究者の協力を得て実施したものです。

あたかも、平成24年（2012）は、鴨長明が『方丈記』を書き上げて800年目を迎えます。国文学研究資料館では、それを記念して特別展示「鴨長明とその時代—『方丈記』800年記念」を開催することもあり、テーマとして鴨長明と『方丈記』を取り上げることにしました。

昨年（2011）の3月11日に、未曾有の大災害に見舞われた今の日本は、不安定な政治情勢も相俟って大きな不安に包まれています。そこで、地震や辻風を含む幾多の災害を体験し、源平の争乱など混迷の時代を生き抜いた鴨長明の生き方を通して、我々がこれからどう生きていけばよいかを考え直そうというのが狙いです。「不安の時代をどう生きるか—鴨長明と『方丈記』の世界」と題したのは、そのような意図からでした。

本催しは、募集をはじめてわずか三日間で定員が一杯になるほどの反響で、当日は、JR中央線が架線工事で不通になるというアクシデントがあったにもかかわらず、400人近い聴衆が集まり、最後まで熱心に耳を傾けました。

プログラムは、まず人間文化研究機構の金田章裕機構長の挨拶にはじまり、はじめに、歌人の馬場あき子氏と元国際日本文化研究センター所長の山折哲雄氏にご講演をいただきました。馬場氏は「転換期の歌人長明の鬱情」というタイトルで、歌詠みの視点から現代短歌にも通じる長明作の和歌の魅力を多くの作例を通して論じられ、山折氏は「方丈を生きる」と題して、日野の方丈跡を訪れたことを枕に、湿気に覆われた日本固有の風土が、日本人の気質を形成したことを、13世紀の隠者から近代の作家・思想家までを上げて具体的にお話しされました。凜とした馬場氏、隠者のような山折氏とお話しぶりは対照的でしたが、力強いお二人の講演は会場に大きな感動をもたらしました。

その後、休憩を挟んで「いま長明・『方丈記』を読み直す」というシンポジウムに移りました。司会は、国文学研究資料館教授の寺島恒世氏がつとめ、パネリストは、国際日本文化研究センター教授の荒木浩氏、二松学舎大学教授の磯水絵氏、成蹊大学教授の浅見和彦氏の三人です。このお三方は、『方丈記』をはじめとする鴨長明研究の第一人者で、沢山の研究成果を学界だけでなく広く社会に発信しています。荒木氏は「姿・身・心—『方丈記』の自伝性と外部世界」、磯氏は「長明と管絃—黒皮籠の中身より—」、浅見氏は「隠者は歩く」という題でそれぞれ興味深いお話しをされ、その後、講演者の馬場氏・山折氏もコメンテーターとして加わり、元NHKのアナウンサー和田篤氏による『方丈記』の朗読も交えて、多面的な魅力を持つ『方丈記』について刺激的な討論がなされました。

最後は担当機関である国文学研究資料館の今西祐一郎館長による挨拶で閉じられました。終了は午後5時。会場の皆さんは、半日にわたり鴨長明と『方丈記』の世界を満喫して、帰途につかれたことと思います。25日から始まる特別展示と一連の行事として、たいへん意義のある催しとなりました。



シンポジウム風景

【文責 国文学研究資料館 教授 小林 健二】

● サイエンスカフェ「1億度にプラズマを加熱するー太陽を地上にー」を開催

6月23日（土）、湘南国際村センターにおいて、総研大とかながわ国際交流財団との共催でサイエンスカフェを開催しました。地元の葉山町や横須賀市、遠くからは東京都など、計49名の参加がありました。参加者の年齢層も幅広く、中学生から80代の方まで様々でした。

今回は講師として物理科学研究科の竹入康彦教授を迎え、「1億度にプラズマを加熱するー太陽を地上にー」と題して、お茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中、2時間の講義を行いました。

講義は核融合の話から始まり、「核融合反応とはー地上に太陽を創るー」という興味深い話、現在されている研究などについて、大変分かりやすく説明をしていただきました。また「核融合発電の実現へ向けて」という、将来に向けた話もありました。

参加者も核融合などに関する強い興味を持つ方が多く、時間が足りなくなるほど活発に質問をしていました。

また終了後のアンケート結果からも、多くの方が満足されたことがうかがえ、「本学における研究成果を一般の方にわかりやすく伝える」というサイエンスカフェ本来の目的は、充分達成されたようでした。



【文責 総務課】

● 先導科学研究科オープンキャンパスを開催

先導科学研究科は、6月8日（金）及び9日（土）の2日間にわたり葉山キャンパスにおいて、オープンキャンパスを開催いたしました。本研究科では毎年2回オープンキャンパスを開催しており、今回は10名の参加がありました。

平田学長補佐による「総研大と全学事業の紹介」、蟻川専攻長の「生命共生体進化学専攻の概要説明」から始まり、各分野の研究内容紹介やラボ見学ツアー、情報交換会が行われました。参加者からは「先生や大学院生の方々といろいろと話ができ良かった」「研究室の雰囲気などが実際に体感できて良かった」「自分の進路決定にとって、とても参考になった」等の感想が聞かれ、大変充実した開催となりました。

【プログラム概要】

1日目

- ・総研大と全学事業の紹介
- ・生命共生体進化学専攻の概要説明
- ・カリキュラム・入試に関する説明
- ・研究内容紹介
- ・在学生の紹介とメッセージ
- ・ポスター説明&情報交換会

2日目

- ・ラボ見学ツアー



【文責 総務課】

● 国立天文台特別公開講座/総研大天文科学専攻入試ガイダンスを開催

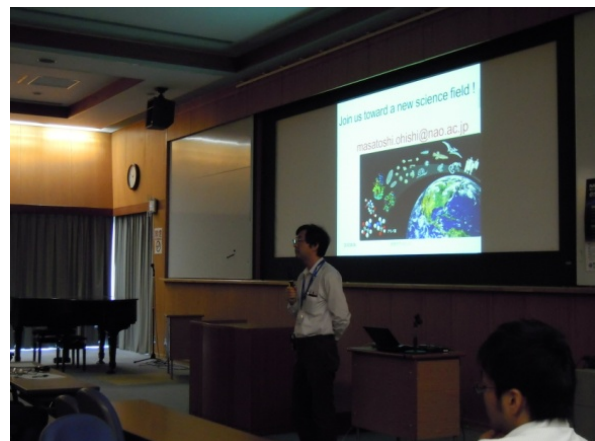
2012年5月26日に（土）に国立天文台（三鷹キャンパス）で、特別公開講演および総研大入試ガイダンスが行われました。今年は、30名以上の方々にご参加いただき、大変な盛り上がりを見せました。また、学生のみならず一般の方も参加され、日本の天文学を国立天文台から社会に発信する良い機会になりました。

特別公開講演では、「新領域を切り開く天文学」をテーマとして、ハワイ観測所の宮崎聡准教授、理論研究部の田中雅臣助教、天文データセンターの大石雅寿准教授による公演が行われました。装置開発からシミュレーションに至るまで最先端の研究を身近に感じられ、参加者にとって大変有意義な時間となりました。また、参加者による質疑応答では、今後日本の天文学がどのように発展して、どんな可能性を秘めているのか、白熱した議論が繰り広げられました。

教員との相談会では、興味・関心のある分野の教員に直接話を聞くことができ、大学院の概要、入試や入学後の学生生活、実際の研究活動などの質疑応答が活発に行われました。また、院生とも交流する場が設けられ、実際の研究生活や、授業、実習などについて詳しく聞けるとても有意義な場となりました。このように、多くの方々にご参加いただけたことで、積極的な質疑応答が交わされ、参加者にも講演者にも大変意義のあるガイダンスとなりました。



田中助教の講演内容



参加者から質問を受ける大石准教授



教員との相談会の様子



ハワイからも skype で接続して対応

【文責：天文科学専攻】

【各種募集】現在公募中の情報

事 項	応募期間	提出先
国立天文台滞在型研究員	随時(滞在希望初日の前月 1 日まで)	国立天文台研究支援係
http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/kouryuu/koubo/h24taizai.html		
学融合推進センター 研究論文助成	随時	総合研究大学院大学 学融合推進センター事務係
http://center.soken.ac.jp/act/thesis.html		

【イベント情報】

● 総研大の行事

7 月

日程	時間	行事名	場所
8 日(日)	13:00-16:30	日本歴史研究専攻 大学院説明会	明治大学アカデミーコ モン 309A 教室

8 月

日程	時間	行事名	場所
8 月 20 日(月) -9 月 13 日(木)		天文学専攻サマースチューデントプログラム (夏の体験研究)	三鷹・野辺山・水沢・ハ ワイ
21 日(火)		JSPS サマープログラム報告会	ホテルグランドパレス

● 基盤機関の行事

7 月

日程	時間	行事名	場所
6 月 24 日(日) -8 月 25 日(土)		夏のみんぱくフォーラム 2012(探究ひろば関連) 「知りたい、触れたい、調べたい—『みんぱく流』探 究のすすめ」開幕	国立民族学博物館
1 日(日)	10:15-16:45	音楽の祭日 2012 in みんぱく	国立民族学博物館 特別展示館他
8 日(日)	13:00-16:30	日本歴史研究専攻 大学院夏季説明会	明治大学アカデミーコ モン (東京都千代田区)
8 日(日)	14:30-15:30	みんぱくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第 260 回 「ビルマ/ミャンマーの口(くち)コミカ(りょく)」	国立民族学博物館
7 月 10 日(火) -9 月 2 日(日)	9:30-16:00	企画展示 楽器は語る —紀州藩主徳川治宝と君子の楽—	国立歴史民俗博物館
http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html			
7 月 10 日(火) -9 月 2 日(日)	9:30-16:00	<新収資料の公開>南都楽人辻家の文書	国立歴史民俗博物館
14 日(土)	12:00-15:30	点字教室	国立民族学博物館 エントランスホール(本 館 1F)

14日(土)	13:00-15:30	第343回歴博講演会「木戸孝允をめぐるあれこれ」	国立歴史民俗博物館
14日(土)	13:30-16:30	みんなくウィーク映画会／みんなくワールドシネマ「路上のソリスト」	国立民族学博物館
14日(土)、 16日(月・祝)、 28日(土)	13:30-16:00	夏のみんぱくフォーラム2012(探究ひろば関連) 連続講演「博物館にさわる」	国立民族学博物館
15日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第261回 「みんなくの展示と映像」	国立民族学博物館
15日(日)、 16日(月・祝)、 22日(日)	13:00～	みんなく映画会 日印国交樹立60周年 「インド・クラシック映画特集」	国立民族学博物館
21日(土)	13:00-16:30	歴博フォーラム第83回「人・音・文化-紀州徳川家 伝来楽器コレクションをめぐる-」	国立歴史民俗博物館
21日(土)	13:30-15:00	夏のみんぱくフォーラム2012(探究ひろば関連) 第410回みんなくゼミナール「情報アクティビスト宣 言-市民の知的探究と博物館」	国立民族学博物館 講堂
21日(土)	15:30-17:20	核融合科学研究所 市民学術講演会	セラミックパークMINO 1階 国際会議場
22日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第262回講演タイトル「あたらしく なったビデオテーカ-みんなく最後のビデオテー カ???	国立民族学博物館
28日(土)	13:00-17:00	歴博フォーラム第84回「河童とは何か」	早稲田大学 大隈記念講堂
28日(土)	13:30-15:30	第160回くらしの植物苑観察会 「縄文時代の栽培植物と農耕」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
28日(土) -29日(日)	28日 13:00-18:00 29日 9:00-17:30	手話言語と音声言語のシンポジウム(1) 「言語の記述・記録・保存」	国立民族学博物館
http://www.minpaku.ac.jp/research/news/20120728-29rm			
29日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第263回 「移民の国フランスとアフリカの深い関係」	国立民族学博物館
7月31日(火) -9月2日(日)	9:30-16:00	くらしの植物苑特別企画「伝統の朝顔」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/plant_now.html			

8月

日程	時間	行事名	場所
2日(木) -25日(土)		展示場クイズ「みんなQ」探究ひろば編	国立民族学博物館
4日(土) -5日(日)	13:00～	みんなく映画会 日印国交樹立60周年 「インド・クラシック映画特集」	国立民族学博物館
5日(日)	11:00-12:00	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第264回 「さわっておどろく『手学問のすゝめ』 ーユニバーサル・ミュージアムの可能性ー」	国立民族学博物館
7日(火)	10:20-17:00	国立民族学博物館・日本国際理解教育学会共催 博学連携教員研修ワークショップ2011 in みんなく 「学校と博物館でつくる国際理解教育ー新しい学びをデザインするー」	国立民族学博物館
11日(土)	13:00-15:00	第344回歴博講演会 徳川治宝の楽器収集とその時代	国立歴史民俗博物館
11日(土)、 25日(土)	13:30-16:00	夏のみんぱくフォーラム2012(探究ひろば関連) 連続講演「博物館にさわる」	国立民族学博物館
12日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第265回 「沖縄の離島社会における高齢者福祉」	国立民族学博物館
18日(土)	13:30-15:00	夏のみんぱくフォーラム2012(探究ひろば関連) 第411回みんなくゼミナール 「ソーシャルメディアに見る人とモノの関係」	国立民族学博物館 講堂
19日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第266回 「『身体』について考える:酒蔵でのフィールドワークを通じて」	国立民族学博物館
21日(火)	10:30-16:30	夏休みこどもワークショップ ー夏の自由研究はこれで解決!『働く』って何? ーアフリカの生活をみてみよう!」	国立民族学博物館
25日(土)	10:00-12:00	第161回 暮らしの植物苑観察会 「朝顔の仲間たち」	国立歴史民俗博物館 暮らしの植物苑
26日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロンー 研究者と話そう 第267回 「東日本大震災被災地のまちづくり」	国立民族学博物館
28日(火)、 30日(木)、 31日(金)	14:00-17:00	2012年度みんなく秋の遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス	国立民族学博物館

9月

日程	時間	行事名	場所
2日(日)		研究公演「神への祈りと喜びの舞曲—バッハからバルトークへ—」	国立民族学博物館
8日(土)	13:00-15:00	第345回歴博講演会 「考古学・人類学からみた縄文人の生と死」	国立歴史民俗博物館
9日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第268回 「インドネシアの市場(いちば)と商人」	国立民族学博物館
9月13日(木) -11月27日(火)		特別展「世界の織機と織物—織って！みて！織りのカラクリ大発見」	国立民族学博物館 特別展示館
15日(土)	13:00-17:00	第85回歴博フォーラム「『江戸』の発見と商品化—大正期の三越の流行創出と受容—」	国立歴史民俗博物館
15日(土)	13:30-15:00	特別展「世界の織機と織物—織って！みて！織りのカラクリ大発見」関連 第412回みんなくゼミナール「手仕事への回帰」	国立民族学博物館 講堂
22日(土・祝)	13:30-15:30	第162回くらしの植物苑観察会 「『日本竹譜』とその著者片山直人」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
22日(土・祝)	13:30-16:30	みんなくウィーク映画会／みんなくワールドシネマ 「君を想って海をゆく」	国立民族学博物館
22日(土・祝) -24日(月)	未定	現代インド地域研究 国際セミナー タイトル未定	国立民族学博物館
23日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第269回 タイトル未定	国立民族学博物館
9月27日(木) -11月27日(火)		企画展「記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産」	国立民族学博物館 企画展示場A
30日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン— 研究者と話そう 第270回 タイトル未定	国立民族学博物館

【教員の受賞情報等】

複合科学研究科

極域科学専攻

○菅沼悠介 助教

日本堆積学会 2012 年札幌大会において「最優秀口頭講演賞」 受賞

情報学専攻

○大向一輝 准教授

人工知能学会 2011 年度現場イノベーション賞金賞 受賞

○鯉淵道紘 准教授

COIN2012 Young Engineer Award 受賞

生命科学研究科

遺伝学専攻

○西野達哉 助教

第 1 2 回日本蛋白質科学会年会 若手奨励賞 受賞

基礎生物学専攻

○大隅良典 名誉教授

第 2 8 回京都賞 受賞

【編集後記】

総研大ニューズレター第50号をお届けします。

決算も終わり、比較的落ち着いてきた葉山キャンパスです。梅雨明けも間近のようですので、7月～9月にかけて皆さま可能な限り夏季休暇を取ってリフレッシュしましょう。

最近の人事異動は7月に行われることが多いようです。歓送迎会が続くと思われませんが、飲み過ぎには注意しましょう。



写真：ミツバチと下野（しもつけ）

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や、発表や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と標記していただけますようご協力をお願いします。

発行 2012年7月11日

編集



国立大学法人

総合研究大学院大学

THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会

神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）

広報室

TEL 046-858-1590/FAX 046-858-1632

©2012 SOKENDAI